

学校部活動改革検討に係るアンケートについて（一部抜粋）

■アンケート実施概要

（１）アンケートの目的

本市では、令和４年12月から「熊本市部活動改革検討委員会」において、持続可能な運営主体のあり方等について、10回にわたり検討を行い、令和６年３月に「新しい学校部活動の在り方について」の答申が市教育委員会へ提出された。

本アンケートを通して多くの方々にご意見をいただき、本市としての方針決定に向けて、こども等の意見反映を行うための基礎資料とするため、アンケートを実施するもの。

（２）調査期間

令和6年（2024年）7月1日（月）から7月19日（金）

（３）アンケートの対象及び回答方法

対象	回答方法 ※Microsoft Formsを使用	回答数	対象数 (全数)	回答率
教職員 (小学校・特別支援学校)	回答用URLを配布し、各自回答	1,707人	2,614人	65.3%
教職員（中学校）	回答用URLを配布し、各自回答	943人	1,427人	66.1%
小学生（4～6年生） 保護者	「すぐーる」にて回答先URLを配布し、各自端末で回答	6,987人	16,180人	43.2%
中学生保護者	「すぐーる」にて回答先URLを配布し、各自端末で回答	6,468人	22,247人	29.1%
小学生 (4～6年生)	学校のタブレット端末（iPad）で回答	14,355人	20,322人	70.6%
中学生	学校のタブレット端末（iPad）で回答	11,975人	19,600人	61.1%

※ 調査結果は、各項目を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

※ 記述については、別途作成予定。

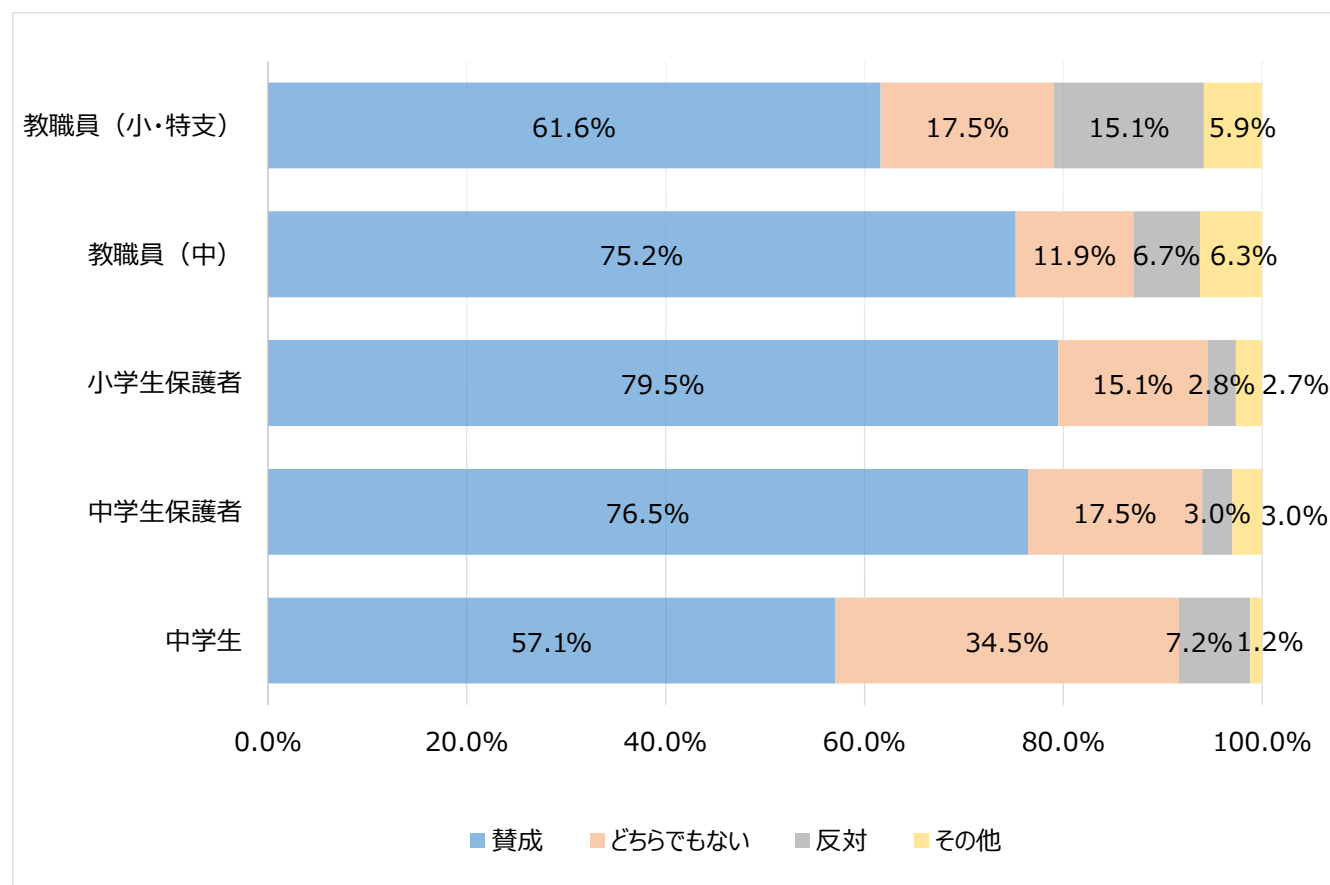
（４）集計結果（一部抜粋）

別紙のとおり

問1 これまで、希望の有無にかかわらず多くの教員が部活動に携わってきましたが、今後は教職員も含めて、指導を希望する者のみが指導者になることを検討しています。

この「指導を希望する者のみが指導する」ことについてはいかがですか。

指導を希望する者のみが指導することについては、「賛成」が最も多く、「どちらでもない」が続いている。教職員（小・特支）では、約8割が「賛成」もしくは「どちらでもない」と回答した。教職員（中）、保護者、中学生では、約9割が「賛成」もしくは「どちらでもない」と回答した。

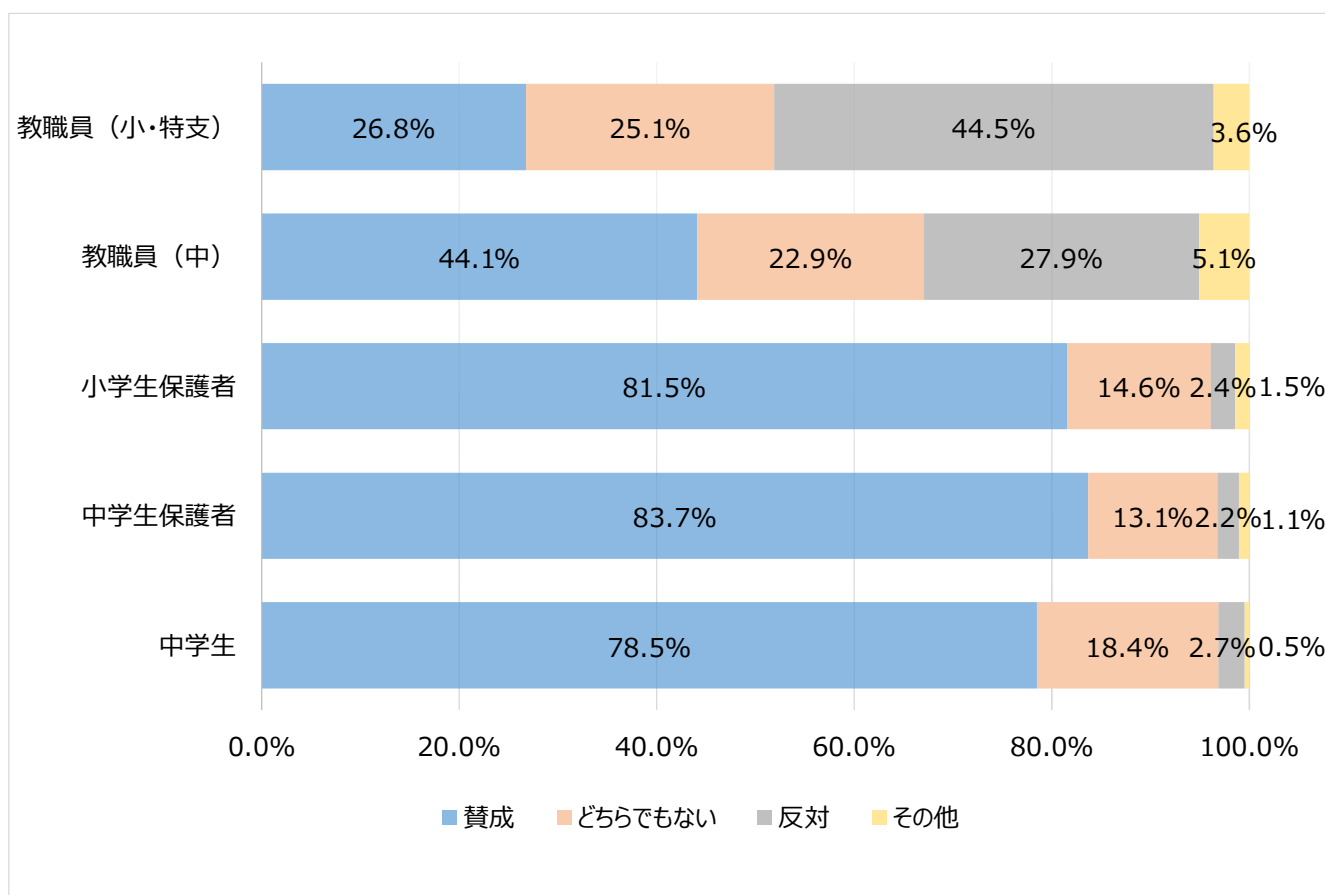


	賛成	割合	どちらでもない	割合	反対	割合	その他	割合	合計
教職員（小・特支）	1,052	61.6%	298	17.5%	257	15.1%	100	5.9%	1,707
教職員（中）	709	75.2%	112	11.9%	63	6.7%	59	6.3%	943
小学生保護者	5,553	79.5%	1,053	15.1%	195	2.8%	186	2.7%	6,987
中学生保護者	4,945	76.5%	1,133	17.5%	196	3.0%	194	3.0%	6,468
中学生	6,835	57.1%	4,136	34.5%	859	7.2%	145	1.2%	11,975

問2 問1にあるように、教職員や地域人材で指導を希望する者が指導することを前提に、学校部活動を今後も継続することを検討しています。

この「学校部活動を今後も継続する」ことについてはいかがですか。

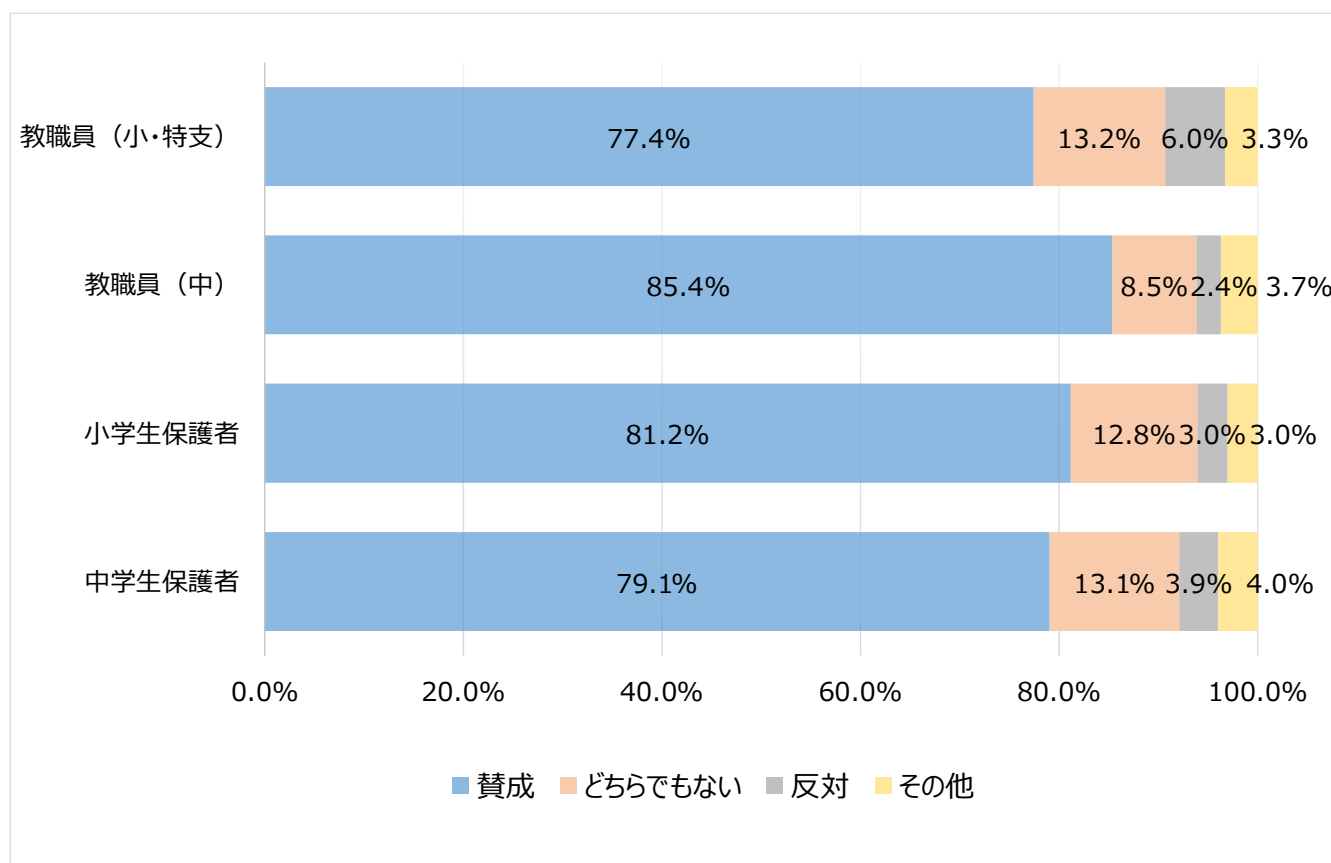
学校部活動を今後も継続することについては、教職員（小・特支）では、「反対」が最も多く、教職員（中）、保護者、中学生では、「賛成」が最も多い。保護者、中学生では、9割以上が「賛成」もしくは「どちらでもない」と回答した。



	賛成	割合	どちらでもない	割合	反対	割合	その他	割合	合計
教職員（小・特支）	457	26.8%	429	25.1%	759	44.5%	62	3.6%	1,707
教職員（中）	416	44.1%	216	22.9%	263	27.9%	48	5.1%	943
小学生保護者	5,697	81.5%	1,017	14.6%	171	2.4%	102	1.5%	6,987
中学生保護者	5,412	83.7%	847	13.1%	141	2.2%	68	1.1%	6,468
中学生	9,400	78.5%	2,200	18.4%	318	2.7%	57	0.5%	11,975

問3 「新しい学校部活動」へ向けての改革の基本方針として、「Ⅳ 持続可能な運営費用を確保し、全ての指導者に適正な対価を支払う」とあります。今まで教職員には、ほとんど手当や報酬は支払われていないといったボランティアに近い形で部活動指導を行っていました。今後は新たに指導者に係る指導費等が発生することについてはいかがですか。

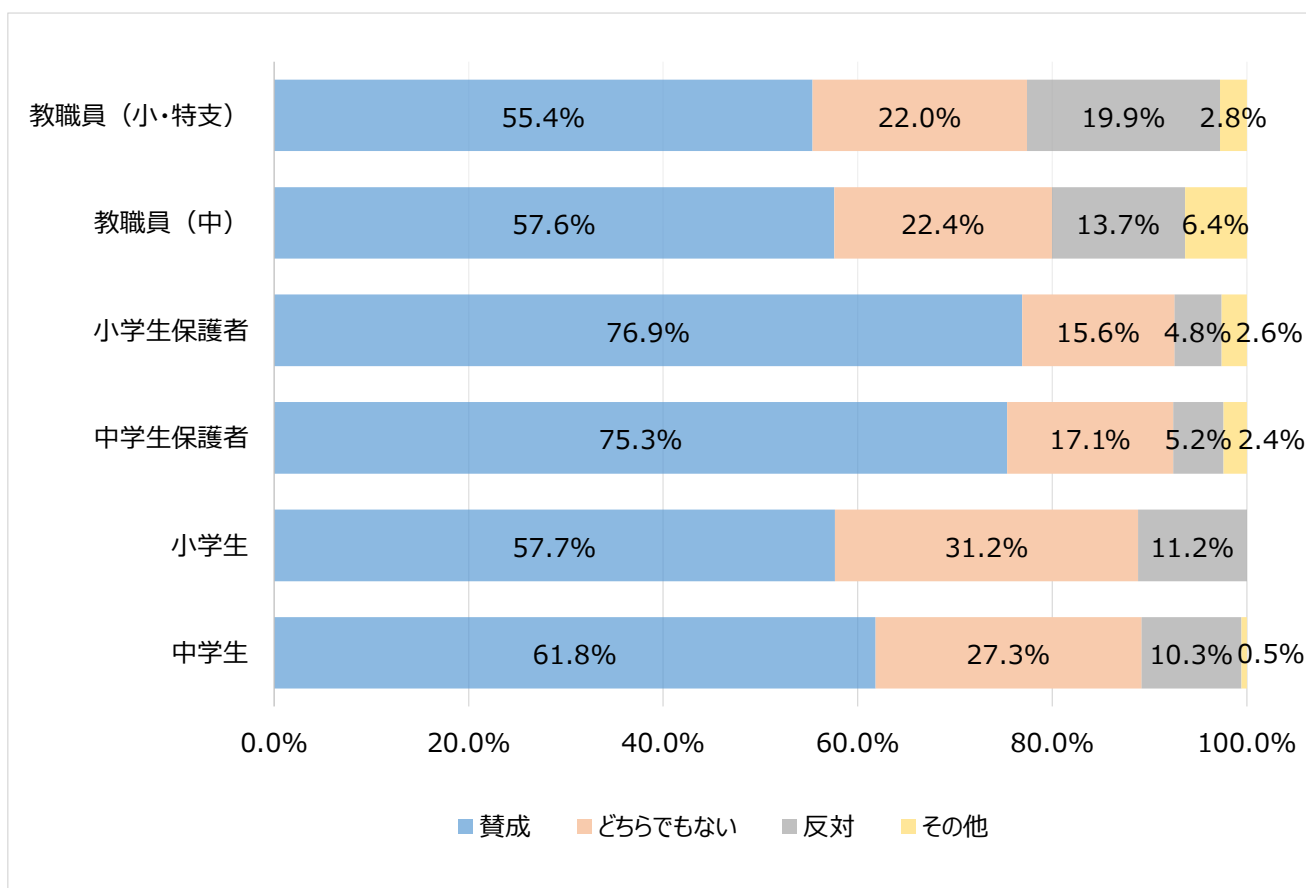
新たに指導者に係る指導費等が発生することについては、「賛成」が最も多く、「どちらでもない」が続いている。教職員、保護者の約9割以上が、「賛成」もしくは「どちらでもない」と回答した。



	賛成	割合	どちらでもない	割合	反対	割合	その他	割合	合計
教職員 (小・特支)	1,322	77.4%	226	13.2%	103	6.0%	56	3.3%	1,707
教職員 (中)	805	85.4%	80	8.5%	23	2.4%	35	3.7%	943
小学生保護者	5,672	81.2%	892	12.8%	212	3.0%	211	3.0%	6,987
中学生保護者	5,113	79.1%	845	13.1%	254	3.9%	256	4.0%	6,468

問4 「新しい学校部活動」では、自分の学校にはなくても、隣の学校にあれば、その部活動に参加することができる、または、人数不足によりチームが組めないこと、指導者不足による問題などを解決するために、隣の学校等の生徒と一緒に活動を行う「拠点校部活動」の実施を始めていますが、この拠点校部活動の推進についてはいかがですか。

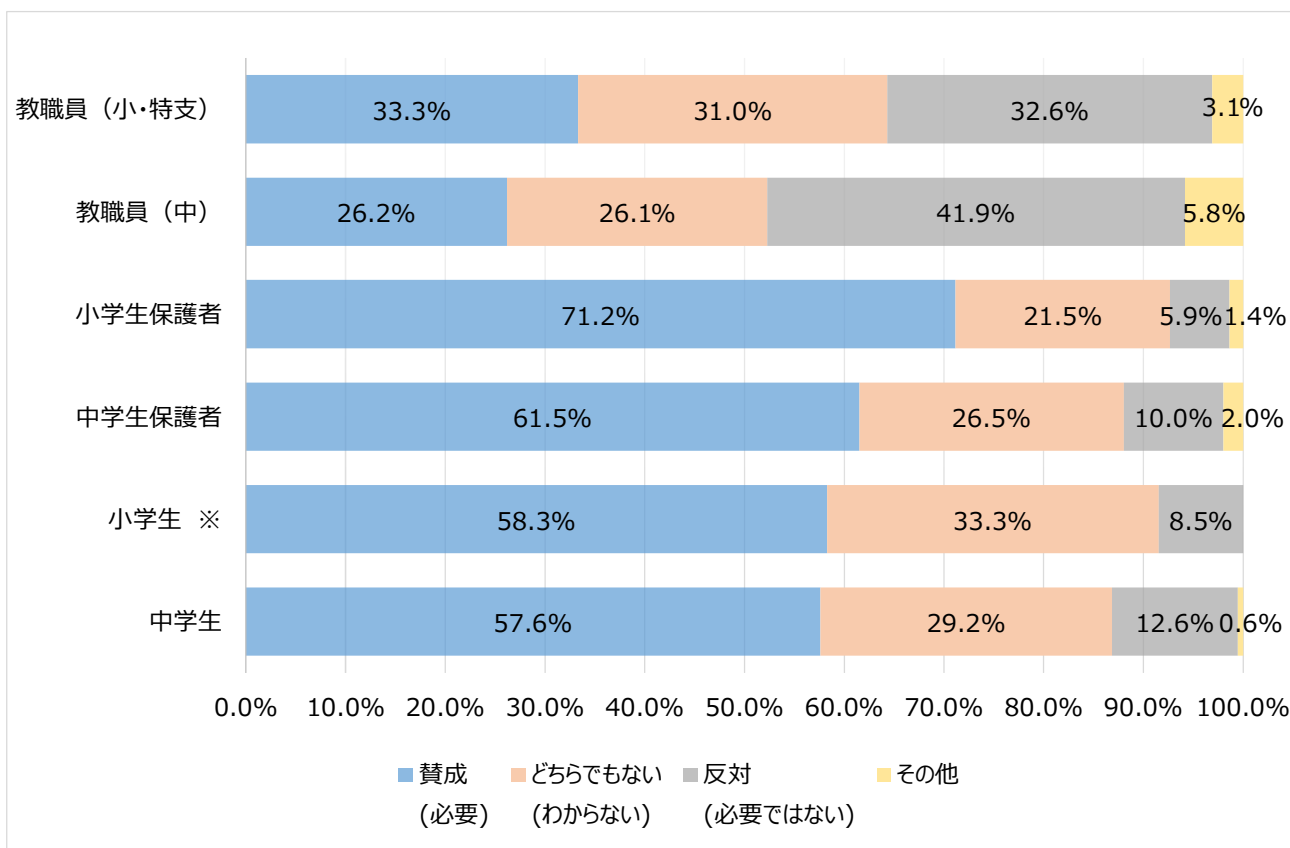
拠点校部活動の推進については、「賛成」が最も多く、「どちらでもない」が続いている。「賛成」もしくは「どちらでもない」と回答した割合は、教職員が約8割で、それ以外は約9割だった。



	賛成	割合	どちらでもない	割合	反対	割合	その他	割合	合計
教職員（小・特支）	945	55.4%	376	22.0%	339	19.9%	47	2.8%	1,707
教職員（中）	543	57.6%	211	22.4%	129	13.7%	60	6.4%	943
小学生保護者	5,373	76.9%	1,093	15.6%	338	4.8%	183	2.6%	6,987
中学生保護者	4,873	75.3%	1,106	17.1%	334	5.2%	155	2.4%	6,468
小学生	8,276	57.7%	4,477	31.2%	1,602	11.2%			14,355
中学生	7,404	61.8%	3,274	27.3%	1,233	10.3%	64	0.5%	11,975

問5 「新しい学校部活動」では、今までにない部活動の形も検討しています。気軽に参加でき、大会出場などを目標としない、自分たちで自主的に活動する「チャレンジクラブ（仮称）」の創設についてはいかがですか。

「チャレンジクラブ（仮称）」の創設については、教職員（小・特支）、保護者、中学生では、「賛成」が最も多く、教職員（中）では「反対」が最も多い。保護者、小学生、中学生の約9割が「賛成」もしくは「どちらでもない」と回答した。

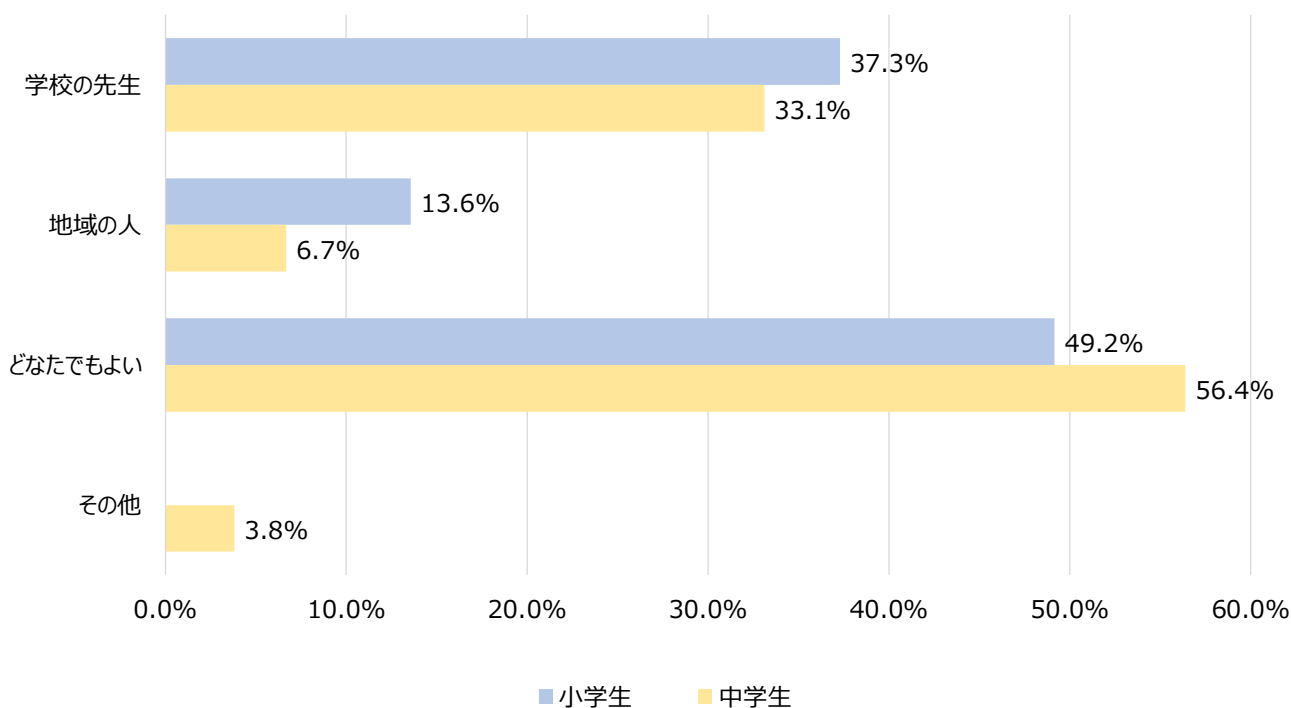


	賛成 (必要)	割合	どちらでもない (わからない)	割合	反対 (必要ではない)	割合	その他	割合	合計
教職員（小・特支）	569	33.3%	529	31.0%	556	32.6%	53	3.1%	1,707
教職員（中）	247	26.2%	246	26.1%	395	41.9%	55	5.8%	943
小学生保護者	4,973	71.2%	1,502	21.5%	415	5.9%	97	1.4%	6,987
中学生保護者	3,980	61.5%	1,714	26.5%	646	10.0%	128	2.0%	6,468
小学生 ※	8,366	58.3%	4,776	33.3%	1,213	8.5%			14,355
中学生	6,899	57.6%	3,502	29.2%	1,508	12.6%	66	0.6%	11,975

※小学生のみ「必要」「わからない」「必要ではない」の3つの選択肢から回答を依頼。

問6 「新しい学校部活動」では、希望する学校の先生たちと地域の人（例えば、大学生、公務員、退職教員、民間企業従事者など）が指導を行うように体制をつくろうと検討しています。指導者として教えてほしい方はどのような方を望まれますか。

指導者として教えてほしい方の希望については、小学生、中学生ともに「どなたでもよい」が最も多く、「学校の先生」が続いている。



	小学生	割合	中学生	割合
学校の先生	5,353	37.3%	3,965	33.1%
地域の人	1,946	13.6%	800	6.7%
どなたでもよい	7,056	49.2%	6,753	56.4%
その他			457	3.8%
計	14,355		11,975	